



株式会社 人と古民家

代表取締役・一級建築士

まきのしま あやこ
牧野嶋 彩子さん



牧野嶋さんは、令和6年に千葉県で初めて女性のチャレンジ賞*（男女共同参画担当大臣賞）を受賞された一級建築士・経営者。東日本大震災を契機に株式会社「人と古民家」を設立、大多喜町にある古民家を改装した一棟貸し宿泊施設「まるがやつ」では、古民家を後世に伝え地域活性化につながるモデルとして、平成29年に千葉県建築文化賞優秀賞を受けられています。今回はその「まるがやつ」に伺い、女性にとって働きやすい会社づくりや、ご自身の考える男女共同参画社会などについてお話を聞かせていただきました。

（※男女共同参画社会実現のため、起業やNPO活動、地域活動で活躍する女性を国が顕彰）

——建築士を目指したきっかけは？

父が建築関係の仕事をしていて、その影響もあって、絵を描くことや、ものづくりが好きだったので、中学生ぐらいから建築士を目指していました。



「まるがやつ」の
宿泊施設「萱」の
ダイニングキッチン

父から、女性でも手に職をつけて、社会でも活躍できるように資格をとっておいた方が良い、と言われていたんです。

——「人と古民家」を始めた経緯について

もともと20代の時には都内の設計事務所に勤めていて、子供を産んで復帰したのですが、土日も普通に仕事があったりして、仕事自体は楽しかったんですけど子育てと同時には続けられなくて、30代で独立したんです。この頃は、お台場の方に事務所を構えていました。

でも、東日本大震災のときに、東北地方の仕事を多く受けていたのがなくなって、従業員さんを雇い続けるのが難しくなったんです。加えて、子供も小学生になって、家の近くに仕事場を移した方が良いと思い、千葉の方に移ろうかと思っていたんです。

そんな折に偶然、大多喜で古民家の設計監理の仕事がありまして、そこで古民家の良さに気づいたんです。この迫力もそうですし、木材の使い方まで様々な技術が使われていて、古民家ってすごい魅力的だなと。梁一つとっても、木材の曲がる方向まで考えて作られていて、今の新築ではありえない技術が使われているのが本当に凄いです。

それで千葉県で「人と古民家」という会社を作って、古民家のショールームみたいな、前々からやってみたかった地域創生のためになるような施設を作りたいと思ったんです。

——現在の「人と古民家」の事業

現在は、この「まるがやつ」の運営と新築・古民家の設計監理の仕事を行っています。設計事務所としての仕事と、「まるがやつ」のような古民家運営事業ですね。市川の方にも「オアシス妙典」という財団法人化した施設がありまして、そこの運営をやらせてもらってます。月に一回マルシェを開いたり、コンサートやアロマやヨガの講座を開いたりして、地域に貢献しています。

また、自分が生まれ育った八千代の方でも古民家事業を手掛けてみたいと考えています。

——女性にとって働きやすい会社づくり

女性は、子育て、出産、介護というように、男性よりも年齢によってライフステージが大きく変わってくるんですね。その時々でお休みを取ってもらい、育休や介護がある前提で働いてもらうようにして、ライフステージに合わせて様子を見てあげるようにするというのは心がけています。



宿泊施設「萱」
の玄関に立つ
牧野嶋さん

私自身も母に助けられながら子育てを終えたと思ったら、母の介護が始まりました。

私も、自分の母のことも周りには率直に伝えていきます。そういうところはオープンにしてもらった方が対応しやすいんです。最近もスタッフの一人が体調を崩してしまい、従業員皆で、どうやってフォローしていくか考えていました。

経営を学ぶ塾で従業員の幸せを第一に考えることを教わりました。スタッフとの信頼関係が一番大切なんだと。自分から心を開くと、相手も歩み寄ってくれるのかなと思っています。

——経営の課題について

やっぱり運営が課題ですね。運営をどうしていくかは難しく、作るのは設計士さんが沢山いますし、施工会社さんもある、予算があればいい材料が使えていい設計ができると思うんですけど、会社の中の運営はそうはいかなくて。人手不足だったり、集客の問題だったり、地方創生事業の難しさってそういうところにあると感じています。

人の問題は本当に大変で、「まるがやつ」では地元の方に働いていただいています。今は働いている方がご紹介くださったりして、なんとか10人ぐらいの体制でやっていますが、皆さんの平均年齢も上がってきて、体力的な問題も心配です。募集しても40代の方が子育てに忙しかったりしてなかなか来てくれないんですよ。でも、70代の方は、楽しく働けてありがたい、と言って働いてくれます。



宿泊施設「萱」
のテラス

——牧野嶋さんの男女共同参画社会とは？

これって難しいですよ。結局男女は、良いところが全然違うじゃないですか。最終的には人間同士、人同士になるのかなあ、と思っています。

工事みたいに力がある仕事って、女性にはできないです。でも、積算だったりデザインだったり女性能力を活かしますし、男性と女性のそれぞれの能力に違うところがあるのはすごく感じるので、お互いの能力を認め合って、助け合って社会を作っていくのが良いのかなと思っています。

私はこのあたりは教育なのかな、と思っていて、学校教育での学びや、家庭の環境で、今の状況も変わっていくのではないかなと思っています。

——今後やってみたいことを教えてください

今までのことを続けていって、従業員さんが楽しく働いてくれつつ、社会貢献に自分のやることが繋がっていると良いかなと思っています。地域にとって建築がどうあるべきかということも突き詰めたいなと。自分も20代から50代になってやれることも変わってきましたし、今までやってきたことをブラッシュアップしていくようなことをしていきたいです。

あと、八千代市での施設を手掛けることが出来るので、より自分がいる地域に対して、還元していけたらと思っています。

従業員さん曰く、「建物って、地域の宝だと思うんです」って、私が言ったらいいんですが、そういう施設になって欲しいです。

——読者へのメッセージ

自分の好きなことを見つけてほしいですね。今の時代、自分の偏差値がこれくらいだからと、大学を決める人もいるんですけど、そういうことではなく、自分のやりたいことを見つけて欲しいですね。

挫折してもやり直すことはできるので、やりたいことを目指して行ってほしいです。恐れずに自分のやりたいことを探して進んでいって、時には回り道をしてよいと思います。



「まるがやつ」の
宿泊施設「蔵」

株式会社 人と古民家
宿泊施設 「まるがやつ」
宿泊施設 「ほりのみせ」



ホームページ